

たくじょうちくおんき  
卓 上 蓄 音 機



「Columbia Viva-tonal Grafonola」 NO.R933 (昭和初期)  
岡崎むかし館

《音楽を聴く道具》

- 1877年(明治10)  
トーマス・エジソンが錫箔円筒蓄音機を発明
- 1887年(明治20)  
ベルリナーが平円盤レコードと蓄音機を発明
- 1909年(明治42)  
日米蓄音機製造により国産レコード製造
- 1951年(昭和26)  
日本で始めてLPレコード発売
- 1958年(昭和33)  
ステレオプレーヤーを日本で始めて発売
- 1966年(昭和41)  
国産テープレコード発売開始
- 1979年(昭和54年)  
ソニーが世界初のヘッドホンステレオ「ウォークマン」を発売
- 1982年(昭和57年)  
フィリップス社とソニーがCDを共同開発し、世界で初めて発売

音を録音したレコードを聴く道具である蓄音機は、エジソンによって発明されました。その後、レコードは円筒型から円盤型となり、改良されて広く普及していきます。明治末頃には日本でも製造販売されるようになりますが、当時は高価なぜいたく品でした。大正から昭和初め頃、現在と比べ娯楽が少なかった時代において、家族で蓄音機を囲み音楽を聴いて団らんを過ごすなど、人々の貴重な楽しみの道具として親しまれました。

この卓上蓄音機でレコードを聴く時は、ふたを開けて側面のハンドルを回し、内蔵されたゼンマイを巻いて、円盤を回転させてから、鉄針をレコード外側の溝にそっと置きます。箱下部に音の出るホーンがあり、板の開閉により音量調整もできます。デジタルの機械音とは異なる暖か味のある音色に、蓄音機やレコードを愛聴するファンは現在もたくさんいます。